**「連携型個別の指導計画のポイント**（通級指導教室と在籍学級との連携）**」**

〇通級指導教室での指導をより効果的なものにし，その成果を在籍学級での授業や生活に生かしていくには，指導のあり方を含め，関係者間の密な情報共有が重要になります。通級指導教室と在籍学級とが児童生徒の実態を共有し，指導に一貫性がもてるようにこの形式で計画してみましょう。

１　連携型個別の指導計画の作成の仕方とポイントについて

　「連携型個別の指導計画作成のポイント」

1. 在籍学級担任，通級指導教室担当，保護者，本人とともに作成
2. 何を目指し，どのような内容で，どのような支援を行うかの合意形成
3. 明確な合意形成は，確実な効果に直結

**「共有・連携のポイント」①**

実態把握をする際には，先生同士がお互いに授業参観をします。在籍学級担任が通級指導教室の授業を参観することは，個別に授業をしているために，児童生徒の頑張りや困難さが見えてきます。

また，個別の指導計画を理解した上での参観により，指導の根拠や理由を実感することができます。

**「個別の指導計画をどのように作成すればよいか」**

・はじめに，子どもの現在の状況（つまずきや得意な力，興味関心，認知面等）を多角的に把握できるような実態把握を行います。

・さらに，本人や保護者のニーズを把握します（願い）。

次に，実態把握や本人や保護者のニーズに基づいて，どのようなことを目指したいか，目標にしたいかについて方向性を探ります。

続いて，その目標を達成するための具体的な指導内容を決めます。目標に照らし合わせ，まずはどのようなことから取り組めばよいか，目標達成に導く支援，合理的配慮，評価基準も明らかにしておきます。

そして，実際の指導です。立てた計画が適切であったか。目標は妥当であるか，指導内容は適切か，支援の量や質はニーズに合っているか等の評価を行います。必要に応じて，計画の修正を行います。

**「共有・連携のポイント」②**

教材・教具，指導方法の工夫等を共有します。学びやすい文具類などの教材教具や支援機器，プリント類の工夫，自信や意欲を高める言葉かけや評価の工夫などがあります。

最終的な段階では，個別の指導計画に基づいた指導を学期や年度ごとに評価し，来年度に引き継いでいきます。子どもの能力にどう変化が見られたか，目標としたスキルの獲得は実現されたか，残された課題は何かなどの評価を行います。同時に大切なのは，指導した側の評価も併せて行うことです。

**「担任と担当の指導・支援の連携から」**

通級指導教室担当と在籍学級の担任における児童生徒の個別的な指導・支援を考えることは，学級の他の子どもたちの指導・支援にもつながっていきます。